作成日：2026 年 11 月 13 日

視察報告書

所属会派	おかや未来研究室	氏　名	渡辺 太郎
視察の名称	会派「おかや未来研究室」行政視察		
日程	2026 年 11 月 10 日（火）		
視察要点等	水木しげるを核としたまちづくりの現状と課題（鳥取県境港市）		

※鳥取県境港市を訪問し、境港市議会事務局の作野洋一郎 調査庶務係長に御案内いただき、「水木しげる記念館」の木下雄一 ゼネラルマネージャー、境港市産業部観光振興課の松本昭児 課長からお話を伺いました。

【概要】
水木しげるロードおよび水木しげる記念館を中心とした観光振興とまちづくりの手法について視察を行った。指定管理者制度（＊DBO 方式）を用いた記念館の運営、官民の役割分担、著作権管理の工夫、そして一過性のブームに終わらせない持続可能な観光地形成に向けた取り組みについて学んだ。
＊DBO 方式は、D（Design：設計）＋B（Build：建設）＋O（Operate：運営）を一括委託する方式。資金調達は行政側が行い、民間は設計・建設・運営に専念するが、公共施設の所有権は行政が保持する。

【内容】
1. 視察の背景と目的
少子化が進む岡谷市では現在、地域資源を生かしたまちづくりと交流人口の拡大が課題となっている。境港市は、人口約 3.1 万人のコンパクトなまちでありながら、水木しげるロードを中心に年間約 100 万人の観光客を集めている。本視察では、水木しげるロードと記念館の相乗効果、官民の連携体制、指定管理者制度の効果的な運用方法を学び、岡谷市の文化振興計画や観光施策に活かすことを目的とする。

2. 視察内容・講話要旨
① 水木しげるロードと記念館の役割分担
平成 5 年に整備された水木しげるロード（全長約 800m の間に 178 体の妖怪ブロンズ像を設置）は、キャラクターの魅力を体験する場として機能している。一方、平成 15 年に開館した「水木しげる記念館」は水木しげる氏の人生（戦争体験を含む）に深くフォーカスし、両者を合わせることで「水木ワールド」をより深く理解できる仕掛けとなっている。ブロンズ像はファンからの寄付（一体 100 万〜300 万円）により設置され、市民やファンの参画を促している。

② 記念館のリニューアルと DBO 方式の導入
旧記念館の老朽化に伴い、4 年前に一旦閉館し、民間主導の DBO 方式を採用して、令和 6 年 4 月にリニューアルオープンした。現在、水木プロが代表を務める共同事業体が指定管理者として運営している。行政からの指定管理料は 0 円であり、建設費（約 9.7 億円のうち市債分）も指定管理者が自ら稼いだ収益から 20 年分割で市に返済するという、独立採算性の高い特殊な契約形態をとっている。

③ 行政と民間の明確な役割分担
行政（境港市）はロードの整備や集客のための基盤づくり（ハード面）を担い、そこから先の「稼ぐ」部分（ソフト面・商業活動）は民間（商店街や指定管理者）に委ねるという明確な役割分担がな

されている。行政の評価基準も「入館者数・入り込み客数（人を集めること）」に重点が置かれている。

④ 著作権の柔軟な運用と地元への還元
　水木プロダクションの協力により、商店街でのグッズ販売やノベルティ制作において、著作権が柔軟かつ協力的に運用されている（販売額の 5%、製造費の 10%など明確なロイヤリティ設定）。記念館内のグッズは商店街と競合しないようオリジナル商品を開発し、入館料とグッズ売り上げが運営を支えている。

3. 質疑応答と今後の展望（岡谷市への提言）
Q1. 滞在型観光（夜間の賑わい）への移行状況は？
A. 平成 30 年のロードリニューアル時に夜間のライトアップ（妖怪の影絵など）を導入し、駅前にホテルを誘致したことで一定の滞在時間延長効果はあった。しかし、現状では夜間に開いている店舗が少なく、家影の効果だけで恒常的な夜の賑わいを生み出すには至っておらず、今後の課題となっている。
Q2. 一過性のブーム（ドラマ等の放映）後の集客維持の秘訣は？
A. ドラマ（ゲゲゲの女房等）放送時に急増した客層を定着させるため、放送前から観光地としての受け入れ体制（トイレや駐車場の整備、商店街の協力体制）のベースができていたことが大きい。単なるロケ地ブームで終わらせず、新しい客層を獲得する機会として活かしている。
Q3. シビックプライド（市民の誇り）を育む取り組みは？
A. 市内の小学生向けに「妖怪文化伝承事業」や「平和学習プログラム（水木先生の戦争体験を通じて）」を実施し、子どもたちが地元の資源や歴史を学ぶ機会を提供している。

4. 視察所感とまとめ
・境港市の取り組みで最も注目すべきは、「行政は人を集める基盤を作り、稼ぐのは民間」という官民の明確な役割分担と、それを市民や商店街が深く理解・共有している点である。指定管理料に頼らず自立的に運営し、市の財政負担まで軽減する DBO 方式の採用は、今後の公共施設のあり方として非常に示唆に富む。
・岡谷市においても、諏訪湖畔の整備や大河ドラマ等の波及効果を期待する動きがあるが、単に交流人口を増やすだけでなく、それを地域経済の好循環（稼ぐ仕組み）にどう結びつけるかが課題である。
・駐車場やトイレといった受け入れ環境の整備と併せ、民間が主体的にビジネスを展開できる環境づくりと、そのための行政の「引き際（任せる勇気）」について、岡谷市の文化振興や観光戦略に反映させていく必要がある。

・「童画」の創始者・武井武雄と水木しげるの繋がり、及び連携について
① 創作活動における芸術的な影響
　岡谷市出身の童画家・武井武雄は、大正から昭和にかけて『子供之友』などの雑誌を中心に活躍し、子ども向けの絵画を単なる「挿絵」から芸術性の高い「童画」へと昇華させました。枠にとらわれない自由な造形や色彩感覚、そしてユーモアの中にどこか不気味さや深みを秘めた幻想的な世界観は、のちに日本のマンガ・絵本界を牽引する手塚治虫や水木しげるら多くのクリエイター多大な刺激と影響を与えたようです。水木しげる自身も、武井の持つ豊かな想像力や独創性に深く魅了された一人として知られています。

②「妖怪・おばけ」表現に見る幻想の系譜

武井武雄は美しい童画だけでなく、ユーモアと怪異が同居するファンタジーや、妖怪・おばけをモチーフにした作品も数多く残しています。 現実の枠を超えた異界や、愛嬌のある不思議なキャラクターたちが躍動する世界観は、水木しげるが描く「妖怪ワールド」の土壌とも共通点があります。両者は、昭和の児童文化における「幻想の系譜」として密接に結びついています。

③ 「イルフ動画館」と「水木しげる記念館」との連携による相乗効果

岡谷市の「イルフ童画館」と「童画館通り」、そして境港市の「水木しげる記念館」と「水木しげるロード」は、作家とまちづくりが一体となっている点において多くの共通点を持っています。日本のファンタジーやポップカルチャーの源流をたどる文脈において、両者はファンや研究者の間でも併せて語られることが多い存在です。

今後、「イルフ童画館」と「水木しげる記念館」の交流や連携が実現すれば、双方のファン層の拡大や文化観光の活性化など、大きな相乗効果が期待できます。両館の連携について、是非、前向きに検討していくべきだと考えております。